



## 見えない生成AI利用が組織を揺るがす「シャドーAI」問題



「まだ社内では生成AIツールの本格導入はしていない」そう説明する企業は少なくありません。法人契約も整備されておらず、社内ルールも明確ではなく、管理可能な環境も構築されていないという意味で、本格導入まで至っていない状況です。

しかしその一方で、現場からは別の声が上がっています。「業務の一部で少し使っている」「個人アカウントだから問題はないはず」こうした感覚のもと、知らないうちに利用が広がっているのです。これが、いわゆるシャドーAIです。シャドーAIとは、企業が許可・把握していない個人アカウントの生成AIを従業員が業務で使用することを指します。問題は、会社が把握していないところで利用が進んでいること。

いま、多くの企業で起きているのは、「導入していないはずなのに、すでに使われている」という現実です。

生成AIは、許可を待たない

生成AIは、これまでのITツールとは性質が大きく異なります。サーバー構築やシステム導入の手続き、社内承認のプロセスを経る必要がなく、インターネット環境さえあれば数分で使い始めることができます。

その手軽さゆえに、経営層や情報システム部門の判断を待つことなく、利用は現場から自然に広がっていきます。禁止しても利用は止まらず、様子見をしても自然に減ることはありません。この止められないスピード感こそが、シャドーAIを生み出してしまう構造なのです。

気づかないうちに広がる、見えない利用

実際の現場では、すでに生成AIは日常業務の中に入り込んでいます。

会議後の業務メモをまとめ直すために要約を依頼する。  
営業資料の言い回しを整えるために文章を添削させる。  
契約書の条文を分かりやすく書き換える。  
顧客対応メールの下書きを作成する。

どれも特別なことではありません。目の前の業務を少しでも早く、少しでも正確に終わらせたいという、ごく自然な判断です。現場に悪意はありません。むしろ、効率化しようという前向きな行動です。しかしその裏側で、見えないリスクが積み重なっています。

会社として契約していない個人アカウントでの利用。社外に出してはいけない機密情報の入力。社内限定資料の貼り付け。そして、利用履歴が企業側に残らない環境。大きな事故を起こさなくても、静かに組織の統制を崩していきます。

本当に危険なのは、企業が把握できないまま利用が広がっていることです。利用履歴は残らず、入力内

容も追跡できない。事故が起きてから初めて実態を探し始める、その状態こそがリスクです。管理できない利用が静かに拡大していく。それこそが、シャドーAIの本質です。

## 生成AI利用の裏で進む統制崩壊と情報漏えいリスク

最も危険なのは、問題が起きることではありません。問題が起きるまで気づけないことです。生成AIの利用は日常業務の延長線上で行われるため、リスク行為をしているという自覚が生まれにくい。しかし、ひとたび情報漏えいが発生すれば、企業は問われます。

誰が利用していたのか。どの情報を入力したのか。外部でどのように処理されたのか。

情報漏えいが発生した際に説明責任を果たし、監査に対して利用実態を示し、さらに追跡可能なログを提示できる状態にありますか。統制が効いていない状態とは、リスクを管理できない状態です。生成AIそのものが問題なのではありません。管理されていない利用こそが、最大のリスクなのです。

## 禁止か自由化か、その二択では守れない

危ないからという理由で禁止しても、利用そのものが止まるわけではなく、表に出なくなるだけです。現場判断に任せれば活用は進むかもしれませんが、その裏で統制は確実に崩れていきます。禁止か放任かという二択では、もはや組織を守ることはできず、今求められているのは利用を前提とした設計です。

生成AIは止める対象ではなく、統制の枠組みの中で安全に活かすべき経営資源であり、そのためには管理できる環境を整え、ルールを明確にし、利用状況を可視化するところまで設計してこそ、AIガバナンスは現実的な意味を持ちます。

## 生成AIガバナンスの設計方法～利用を前提にした管理体制とは

公式の利用環境を整備し、入力ルールを明確に定め、利用ログを可視化し、継続的な教育を実施することが基本となります。そして何より重要なのは、使いやすい環境を用意することです。不便な統制は守られません。現場にとって自然に使える統制だけが定着します。統制と利便性を両立する設計こそが、シャドーAIを終わらせるための唯一の現実的な方法です。

## 統制と生産性が両立するAI活用基盤

ガバナンスが整備された組織では、利用状況が可視化され、リスクがコントロールされ、社員は安心して活用できる環境が整い、経営もまた説明責任を果たせる状態になります。その結果として、AI活用はむしろ加速していきます。統制はブレーキではなく、活用を前進させるためのアクセルです。

シャドーAIを放置するのか、それとも戦略的に管理するのか。いま問われているのは生成AIを使うかどうかではなく、どのように統制し、どのように活かすかという設計の問題であり、その設計こそが企業の競争力を左右します。

## 株式会社インソース より

【M&A速報、コラムを日々配信！】X（旧Twitter）で情報を受け取るにはここをクリック

【M&A Online 無料会員登録のご案内】6000本超のM&A関連コラム読み放題!!  
M&Aデータベースが使い放題!!登録無料、会員登録はここをクリック